

2020年4月24日発行

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラム vol. 88 「mHealthによる小児ぜんそくの自己管理支援」 飯尾 美沙 (関東学院大学)

1) 学会からのお知らせ (<http://jahp.wdc-jp.com/>)

■新型コロナウイルス感染症対応のための情報提供 (理事長より)
新型コロナウイルスの勢いが増し、皆さん大変な日々をお過ごしのことと思います。医療関係の方々には、治療最前線でのご尽力に感謝いたします。また教育関係の方々には教育活動の調整やケアに心を砕いておられ、ほかあらゆるお立場の方々が、自らの困難を抱えながら最善を尽くしておられることと思います。どうか健康にはくれぐれもご留意ください。この制約の多い環境で、どう健康を守るかが大きな問題になっています。そこで、日本健康心理学会新型コロナウイルス感染症対策検討WGを立ち上げ、健康心理学会の知恵を広く役立てていただくための情報コーナーを、HPに設けています。

URL: <http://jahp.wdc-jp.com/news/covid.html>
周囲にもお伝えするなどして、ご活用いただければ幸いです。
(2020年4月10日執筆) 理事長・田中 共子

■日本健康心理学会第33回大会の開催について (第33回大会事務局より)
日程: 2020年11月21日(土)・22日(日)
会場: 東北学院大学土樋キャンパス ホーイ記念館 (仙台市青葉区)

現時点では、新型コロナウイルス感染症の推移を注視しながら大会の準備を進めております。開催方法については、今後も状況を見ながら理事会と相談して検討して参ります。
なお、感染症の蔓延による延期や中止の可能性も考慮し、事前参加登録は6月から受付開始しますが参加費の入金は9月以降などの対応を考えております。

■ヘルスサイコジスト 81号の発行 (広報委員会)
ヘルスサイコジスト 81号を添付にてお送りいたします。本号では、健康心理学、および学会の動向が紹介されていますので、ご高覧ください。

■Journal of Health Psychology Research の Vol. 32, No. 1, No. 2, Special_issue 号がJ-STAGEにて公開されています
掲載論文は、下記 URL からご覧いただけます (閲覧には購読者番号とパスワードが必要です)。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jhpr/list/char/ja>
*購読者番号およびパスワードは、下記の会員専用ページでご確認いただけます。
<https://bunken.org/jahp/mypage/logins/login>

No. 1
<原著>

・島井 哲志 (他) 日本人成人の発達段階による人生の意味の変化——得点レベルと関連要因の検討——。

<資料>
・神原 広平 (他) 定時制高校に在籍する青年の抑うつと心理的特徴の検討。
・山本 恵美子 (他) 若手看護師の指示の出し受けスキル尺度における信頼性と妥当性

No. 2
<原著>
・春田 悠佳 (他) 子宮頸がん検診受診の行動変容ステージを説明する認知変数——行動実行モデルを用いた検討——。
・吉田 昌宏 (他) 自律訓練法による注意欠如・多動症者の無条件の自己受容の向上。
・岡田 ゆみ 壮年期の人びとの飲酒動機と問題飲酒に関する研究——性別によるDMQRとAUDITの検討——。

<資料>
・野田 昇太 (他) 社交不安、他者からの評価に対する恐れ、回避行動と自己開示との関係性

Special_issue 号
<特集にあたって>
・宮村 りさ子 (他) 児童虐待に対する健康心理学的アプローチ。
<研究論文>
・田辺 肇 (他) 子ども虐待トラウマによる情動調整不全と解離
・福井 義一 青年期において被虐待経験と不安定愛着が心身の健康に及ぼす影響の回顧的研究——解離性障害や心身症の子防と効果的介入に向けて——。
・松尾 和弥 (他) 被虐待経験と心身の健康——被虐待経験と内的作業モデルが表情認知に及ぼす影響——。
・大浦 真一 (他) 被虐待経験は本当に共感性を低下させるのか?——愛着の内的作業モデルを媒介変数として——。
・関谷 大輝 職業的感情管理および仕事と家庭の分離が養育行動に及ぼす影響——共働きの母親を対象とした検討——。

<特集にあたって>
・三浦 正江 (他) 東日本大震災後の福島における親子への心理支援について。
<研究論文>
・久田 満 (他) 東日本大震災を小学生時代に体験した中学生のメンタルヘルス——福島県沿岸部の公立中学校での追跡調査——。
・及川 祐一 (他) 福島県県民健康調査「こころの健康度・生活習慣に関する調査」における中学生以下の子どもをもつ保護者への電話支援の実践。

・三浦 正江 (他) 支援者の目を通してみた被災児童生徒の体験・様子と支援のあり方——福島原発事故から5年経過時点まで——。
<特集にあたって>
・小関 俊祐 (他) 集団の特徴を考慮したストレスマネジメントの実践。
<研究論文>
・尾掉 万純 (他) 児童生徒へのストレスマネジメント教育における発達段階と技法の適合性の検討。
・小関 俊祐 (他) 児童生徒集団に対するストレスマネジメントのアセスメントと実践。
・土屋 さとみ (他) 東日本大震災における心理的支援の基本的傾向。
・杉山 智風 (他) 工業高校に在籍する生徒に対する集団ストレスマネジメント。

2) 健康心理学コラム Vol. 88

「mHealthによる小児ぜんそくの自己管理支援」
飯尾 美沙 (関東学院大学)

慢性疾患の長期的管理支援において、モバイルアプリなどの mHealth や eHealth が数多く導入されるようになりました。今回は、小児慢性疾患のなかでも、小児ぜんそくにおける mHealth による自己管理支援を紹介します。

ぜんそくのモバイルアプリで取り入れられている行動変容技法には、セルフモニタリング、フィードバックなどがあります (Ramsey et al., 2019)。小児ぜんそくのモバイルアプリの多くは、保護者もしくは中学・高校生といった思春期を対象としています。そのため、自身のスマートフォンを所有していない児が大半の学童期を対象としたものや、幼児後期の子どもが保護者と一緒に使えるアプリはほとんどありません。そこで筆者らは、子どもが自身のスマートフォンをもっていなくても、保護者と一緒に使うことのできる小児ぜんそくアプリを開発しています。この小児ぜんそくアプリは、子どもの発達段階に応じて、図鑑・漫画・クイズによるぜんそく知識、症状・服薬状況に応じたテイラー化メッセージ、服薬・症状のセルフモニタリング、および発作・災害への備えなどの内容となっています (科研費 18H03101)。保護者のスマートフォンにアプリをインストールするため、子どもが自由にアプリにアクセスできないデメリットはありますが、保護者と子どもの相互作用を促し、コミュニケーションのきっかけになるというメリットがあります。mHealth によって、小児慢性疾患の自己管理を子どもと保護者が楽しく継続するための支援、さらには子どものセルフケアの自立を促すための支援が、幼少期から継続されることを期待しています。

引用文献

飯尾 美沙 科学研究費基盤研究 (B) : 18H03101

Ramsey, R. R., Caromody, J. K., Voorhees, S. E., Waring, A., Cushing, C. C., Guilbert, T. W., ... & Fedele, D. A. (2019). A systematic evaluation of asthma management apps examining behavior change techniques. *The Journal of Allergy and Clinical Immunology: In Practice*, 7, 2583-2591.

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更は下記アドレスまで

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想は下記アドレスまで

広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます

<http://jahp.wdc.jp.com/health/health1.html>